

米国アカデミー賞公認 アジア最大級の国際短編映画祭 ショートショート フィルムフェスティバル & アジア

多彩な分野で活躍するプロフェッショナルが就任 各コンペディションの豪華審査員が決定！

【CGアニメーション部門】

諏訪道彦さん、とよた真帆さん、杉山知之さん

【地球を救え！部門 supported by リンレイ】

加藤英明さん、富永愛さん、宮沢和史さん

【ノンフィクション部門 supported by ヤフー株式会社】

原田真人さん、ホラン千秋さん、水上賢治さん

米国アカデミー賞公認・アジア最大級の国際短編映画祭、ショートショート フィルムフェスティバル & アジア（略称：SSFF & ASIA）2019の、「CGアニメーション部門」、「地球を救え！部門 supported by リンレイ」、「ノンフィクション部門 supported by ヤフー株式会社」の『コンペディション』3部門の審査を務めていただく豪華審査員の方々が決定しました。

国内外のコンテンツ業界に多数のクリエイターを輩出しているデジタルハリウッドとSSFF & ASIAとのコラボレーションによる「CGアニメーション部門」には、テレビプロデューサーの諏訪道彦さん、女優のとよた真帆さん、デジタルハリウッド大学学長の杉山知之さんが就任。73カ国747作品の応募から選定された12作品と、本年度米国アカデミー賞短編アニメーション部門ノミネート作品など特別上映2作品も上映。優秀賞は6月16日（日）のアワードセレモニーにて発表いたします。日々進化し続ける様々なCG技術をお楽しみいただけます。

“映像の力で地球を救え”をコンセプトに、地球温暖化防止のための国民運動「チャレンジ25キャンペーン」との連携により2008年に設立され、2013年より現名称となった「地球を救え！部門 supported by リンレイ」は、近年爬虫類ハンターとしてもメディアで引っ張りだこの加藤英明さんに加え、モデルの富永愛さん、シンガーソングライターの宮沢和史さんを審査員に迎えます。温暖化のみならず、広く地球環境保護のメッセージを伝える作品を募集。81カ国626作品の応募の中から、9作品と、ジェレミー・アイアンズ主演の特別上映1作品を上映。優秀賞（環境大臣賞）およびJ-WAVEアワードを選定し、5月29日（水）に行われるオープニングセレモニーにて発表いたします。

昨年の20周年を記念し新設され2年目を迎える「ノンフィクション部門 supported by ヤフー株式会社」は、映画監督の原田真人さん、キャスター・タレントのホラン千秋さん、映画ライターの水上賢治さん、が審査員を務めます。私たちを取り巻く豊かで多様な「日常」や世の中のあらゆる課題まで、世界中の映像作家が社会や人々の営みを切り取り、作り手の眼を通してメッセージをダイレクトに伝えるノンフィクション映像。本年は82カ国750作品と昨年を大幅に超える応募数の中から14作品と、今年3月に亡くなったアニメス・ヴァルダ監督作品、本年度米国アカデミー賞短編ドキュメンタリー部門ノミネート作品の2作品を特別上映。翌年のアカデミー賞短編部門ノミネート候補となる優秀賞は6月16日（日）のアワードセレモニーにて発表いたします。



【本件に関するお問い合わせ先】

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア PR事務局（株式会社サニーサイドアップ内）

担当：児玉（070-3191-4995）、滝口、武田

TEL：03-6894-3200 / FAX：03-5413-3050 / E-mail：SSFF@ssu.co.jp

ショートショート実行委員会 担当：田中

TEL：03-5474-8201 / FAX：03-5474-8202 / E-mail：press@shortshorts.org

【本資料に関する画像については、下記よりダウンロードいただけます】

<https://drive.google.com/drive/folders/1Y6C5k3HikxPDSfkmCSqwWWjJSlG3d3T?usp=sharing>

世界各国の新鋭CGクリエイターの最新作が、ここに集結！IT関連およびデジタルコンテンツの人材育成スクール、大学、大学院を運営し、国内外のコンテンツ業界に多数のクリエイターを輩出しているデジタルハリウッド株式会社とコラボレーションにより、9年目を迎える「CGアニメーション部門」。繊細な描写が魅力の作品からエンターテインメント性の高いダイナミックな作品まで幅広いジャンルの作品群。またデジタルハリウッドが主催する「デジタルフロンティアグランプリ2019」ベストCGアニメーション賞を受賞した作品や、第91回(2019)米国アカデミー賞短編アニメーション部門ノミネート作品を上映。



杉山知之 (デジタルハリウッド大学 学長/工学博士)

1954年東京都生まれ。87年よりMITメディア・ラボ客員研究員として3年間活動。90年国際メディア研究財団・主任研究員、93年 日本大学短期大学部専任講師を経て、94年10月 デジタルハリウッド設立。2004年日本初の株式会社立「デジタルハリウッド大学院」を開学。翌年、「デジタルハリウッド大学」を開学し、現在、同大学・大学院・スクールの学長を務めている。2011年9月、上海音楽学院 (中国) との 合作学部「デジタルメディア芸術学院」を設立、同学院の学院長に就任。VRコンソーシアム理事、ロケーションベースVR協会監事、超教育協会評議員を務め、また福岡県Ruby・コンテンツビジネス振興会会長、内閣官房知的財産戦略本部コンテンツ強化専門調査会委員など多くの委員を歴任。99年度デジタルメディア協会AMDアワード・功労賞受賞。著書は「クール・ジャパン 世界が買いたがる日本」(祥伝社)、「クリエイター・スピリットとは何か?」※最新刊(ちくまプリマー新書)ほか。



諏訪道彦 (テレビプロデューサー)

読売テレビ 編成局アニメーション部 エグゼクティブ・プロデューサー 1959年、愛知県生まれ。大阪大学工学部環境工学科卒業後、1983年読売テレビ入社。1986年に手掛けた『ロボタン』のプロデュースを皮切りに、『シティーハンター』、『YAWARA!』、『魔法騎士レイアース』、『犬夜叉』、『金田一少年の事件簿』の他、『ブラック・ジャック』や『名探偵コナン』など数多くのヒットアニメ番組を企画制作。日本を代表するアニメプロデューサーとして知られる。2012年4月よりラジオ番組「諏訪道彦のSWRAJ」を文化放送超A&Gにて放送中。さらに2016年からはデジタルハリウッド大学で客員教授を務めている。



とよた真帆 (女優)

1967年東京都生まれ。学習院女子高等科在学中にモデルデビューし1986年にアニエスbのモデルとしてパリコレクション等に出演。その後女優に転向し1989年「愛しあってるかい！」(フジテレビ)でデビュー。以降多数のドラマや映画、舞台等に出演。また芸術の造詣が深く写真や絵画の個展を開いたり京友禅の絵師として着物のデザインを手掛ける等趣味の域を超えた活動を展開。NHKドラマ10「デイジー・ラック」、KTV/CX「後妻業」、4月16日スタートKTV/CX「パーフェクトワールド」に出演中。ラジオbayfm「SATURDAY BRACING MORNINGJ」(毎週土曜朝8時)パーソナリティーを務める。

地球を救え！部門 supported by リンレイ 審査員 (五十音順、敬称略)

地球温暖化防止のための国民運動「チャレンジ25キャンペーン」との連携により2008年に設立された「ストップ！温暖化部門」。2013年からは「地球を救え！部門」として生まれ変わり、温暖化だけでなくより広く環境に関する作品を紹介してきました。そして2017年には快適な居住空間をクワイエットする企業、リンレイが本部門のスポンサーに就任。



加藤英明 (静岡大学教育学部講師)

静岡大学教育学部講師。博士(農学)。カメやトカゲの保全生態学的研究を行いながら、学校や地域社会において環境教育活動を行っている。さらに、未知なる生物を求め、世界中のジャングル、砂漠、荒野を駆けめぐり。研究テーマは、動物の系統と進化、外来生物が生態系に及ぼす影響、絶滅の恐れのある野生生物の保護など。テレビ番組：クレイジージャーニー (TBS) や鉄腕ダッシュ (日本テレビ)、池の水全部抜く (テレビ東京) などに出演。著書：世界ぐるっと爬虫類探しの旅、爬虫類ハンター、外来生物図鑑など多数。



冨永愛 (モデル)

17歳でNYコレクションにデビューし、一躍注目を浴びる。以後約10年間に渡り、世界の第一線でトップモデルとして活躍。その後、拠点を東京に移し、モデルの他、テレビ、ラジオ、イベントのパーソナリティなど様々な分野にも精力的に挑戦。現在は日本人として唯一無二のキャリアを持つスーパーモデルとして、チャリティ・社会貢献活動や日本の伝統文化を国内外に伝える活動など、活躍の場をクリエイティブに広げている。



宮沢和史 (シンガーソングライター)

1966年山梨県甲府市生まれ。THE BOOMのボーカリストとして1989年にデビュー。これまでにTHE BOOMとしてアルバムを14枚、ソロでは4枚、GANGA ZUMBAとしては2枚リリースしている。作家としても、喜納昌吉、矢野顕子、夏川りみ、MISIA、中島美嘉、岡田准一、島袋寛子、平原綾香、Kinki Kidsなど、多くのミュージシャンに楽曲を提供。代表曲のひとつ「島唄」はアルゼンチンでの大ヒット(2001年)を記録し、国境を越えて今なお世界に広がり続けている。デビュー25年を迎えた2014年、日本武道館でのライブを最後に、THE BOOMの歴史に幕を閉じ、しばらくの充電期間を経て、2017年から歌手活動を再開。沖縄芸術大学で非常勤講師も務める。2019年5月に、デビュー30周年を迎える。

応募された750作品より選出された14作品と特別作品2作品を上映。

私たちを取り巻く豊かで多様な「日常」や世の中のあらゆる課題まで、世界中の映像作家が社会や人々の営みを切り取り、作り手の眼を通してメッセージをダイレクトに伝えるノンフィクション映像。当映画祭20周年を記念し、国内外のノンフィクションショートフィルムを専門に集めた「ノンフィクション部門 supported by ヤフー株式会社」を新設致しました。米国アカデミー賞公認の国際短編映画祭だからこそお届けできる作品群。人々や社会の課題と向き合わせる力強い映像の力を感じて下さい。



原田真人 (映画監督)

1949年7月3日生まれ。静岡県出身。黒澤明、ハワード・ホークスといった巨匠を師と仰ぐ。79年、『さらば映画の友よ』で監督デビュー。『KAMIKAZE TAXI』(95)は、フランス・ヴァレンシエンヌ冒険映画祭で准グランプリ及び監督賞を受賞。社会派エンタテインメントの『金融腐蝕列島(呪縛)』(99)、『クライマーズ・ハイ』(07)から、モントリオール世界映画祭で審査員特別グランプリ受賞の『わが母の記』(12)や、モンテカルロTV映画祭で最優秀監督賞を受賞した『初秋』(12)など、小津安二郎作品に深く影響された家族ドラマと作品の幅は広く、『駆込み女と駆出し男』(15)では念願の初時代劇を手掛けた。戦後70年に合わせて公開された『日本のいちばん長い日』(15)で第39回日本アカデミー賞優秀監督賞、優秀脚本賞などを受賞。17年、『関ヶ原』(17)では第41回日本アカデミー賞優秀監督賞、優秀作品賞などを受賞した。18年、『検察側の罪人』(18)も大ヒットを記録。『ラスト サムライ』(03/ エドワード・ズウィック監督)では、俳優としてハリウッドデビューを果たしている。現在、2020年公開の時代劇大作『燃えよ剣』に取り組んでいる。



ホラン千秋 (キャスター・タレント)

1988年9月28日東京都生まれ。青山学院大学 文学部 英米文学科卒業。アイルランド人の父と日本人の母を持つ。最近の出演作に、映画「黒執事」(14)、「砂の塔〜知りすぎた隣人〜」(16)など。現在、報道番組「Nスタ」(TBS系列)にてキャスターを務めている。そのほかにも、バラエティ番組「バイキング」(フジテレビ系列)、音楽番組「SONGS OF TOKYO」(NHKワールドJAPAN、NHK総合)にレギュラー出演中。また、映画「若おかみは小学生！」(18)にて初めて声優を務めるなど、幅広い分野にわたって活躍している。

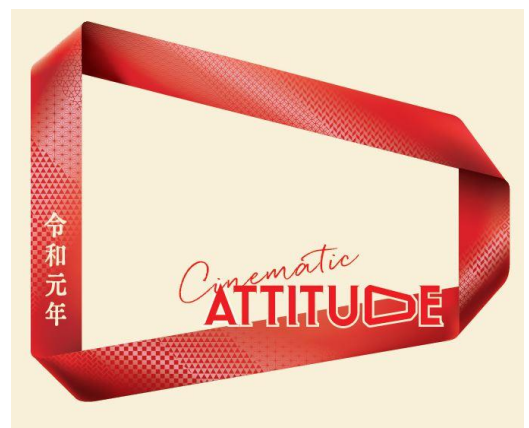


水上賢治 (映画ライター)

1970年、東京都生まれ。レコード会社、雑誌編集などを経てフリーランスのライターに。現在、「スカパー！TVガイド BS+CS」「スカパー！TVガイド プレミアム」などのテレビ雑誌や、ぴあ映画生活などのウェブ媒体で、監督や俳優などのインタビューおよび作品レビュー記事を執筆中。2010～13年、<PFF(ぴあフィルムフェスティバル)>のセレクション・メンバー、2015、2017年には<山形国際ドキュメンタリー映画祭>コンペティション部門の予備選考委員を務めている。

【ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2019 概要】

- 開催期間：5月29日(水)～6月16日(日)
- 上映会場：東京 計5会場予定 およびオンライン会場
- ※開催期間は各会場によって異なります。また、変更になる場合もございます。
- ・5月30日(木)～6月2日(日) iTSCOM STUDIO & HALL 二子玉川ライズ
- ・6月6日(木)～6月9日(日) 表参道ヒルズ スペースオー
- ・6月11日(火) 赤坂インターシティコンファレンス the AIR
- ・6月11日(火)～6月14日(金) アンダーズ 東京 Andaz Studio
- ・6月13日(木)～6月15日(土) シダックス・カルチャーホール
- 一部の有料イベントを除き、全ての上映会場ともに無料上映となります。
事前予約は公式サイトにて4月24日(水) 14:00～受付
※当日券もございます。
- オフィシャルサイト：<https://www.shortshorts.org/2019>
- 主催：ショートショート実行委員会 / ショートショート アジア実行委員会



【SSFF & ASIA 2019 テーマ】「Cinematic Attitude」

映画祭20周年の節目を経て、新たなスタートをきる21年目のテーマは「Cinematic Attitude」。映画祭のビジュアルに用いた、海外から伝わり日本で育まれたそれぞれ異なる文様には、成長、拡大、反映、繋がり、前進、芸能といった意味を含め、映画・映像の普遍的な力や、映画祭が発信していく多様性を表現しました。